

◆巻頭言◆

「電通大生が教える小中校生のための プログラミング教室の話」

日本ナレッジ・マネジメント学会 理事 安部 博文
(電気通信大学 特任教授)



このたび栄えある日本ナレッジ・マネジメント学会の理事として新たに就任いたしました安部博文です。

理事として、本学会の歴史を踏まえ、本学会が引き続き問題解決や新しい価値観を社会に向けて提供する、という意義ある活動ができるよう微力ながら尽力する所存です。どうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

今回はメルマガ編集部から新理事として巻頭言を書いてみよとのご下命を頂きましたので、僭越ながら筆を取りました。

テーマは、2016年5月に始めた電通大プログラミング教室についてナレッジマネジメントの視点からのご紹介です。

まず、教室の目的です。目的は、学習者が将来、自由に生きるためのプログラミング知を身に付けること、です。

学習者・指導者がこの目的に向ってまい進するため、プログラミング知の根源を定め、そこから知を習得・増幅する仕組みを構築しました。

プログラミング知の源として、電通大ベンチャーの社長兼エンジニアを師匠としました。師匠の周りをプログラミングを学び・分かりやすく人に教える技術を身につけたい学生が取り巻き、その先にプログラミングに関心を持つ小中高校生・保護者がいる、という構造です。



これを知の流れで言えば、師匠のプログラミング知が学生に伝わり、学生から生徒に伝わります。生徒の反応は師匠と学生にフィードバックされます。私の役割は、こうした

知の巡りが、教室の目的を実現・後押しするよう調整することです。

イノベーションは「新結合」です。既存の要素を組み合わせ、新しい商品・サービスを生み出すことを言います。電通大には既存の要素として、プログラミングを研究したりビジネスにしている電通大発ベンチャーがいますし、プログラミングが好きな学生がいます。新しい取り組みを支える電通大の事務方もいます。これらを「新結合」させ、今までなかった新サービスを創出した、と解釈すると、プログラミング教室も一つのイノベーションではないか、とひそかに自負しています。

最後のこれからについてご説明します。これからは、2つの取り組みを行います。第一は現在のプログラミング教室の充実です。第二は新コースの開設です。現在のプログラミング教室は、自由な生き方を支える力として、具体的には Python や HTML 等を使い Web アプリの開発力を付けるコースになっています。これと併せてハードが絡む制御系のプログラミング技術習得コースの開設を予定しています。

新しいコースでも知の増幅システムは同じです。

これまで蓄積されたナレッジマネジメントの知見を活かし、電通大近隣の小中学生がプログラミング知を身につけ、自由な生き方ができるようになれば素晴らしいと考えています。本学会にプログラミング教室の実践事例をご報告、新しい知見の蓄積に貢献できるよう精進して参ります。